令和５年度企画展概要（案）

資料６

No.	展覧会名	開催形態	会　期	開催日数	ジャンル	概　　要	備　考(巡回先等)
1	みちのく　いとしい仏たち	巡回展	4/8（土）～5/21（日）	38	近世彫刻	本展覧会は、岩手と青森に残る、その土地で制作された仏像と神像のうち、造形性にすぐれた主に近世の像を紹介するものである。その、やさしくかわいい素朴な造形は、率直にあらわされた信仰心の結露にほかならない。民衆の生活の中で必要とされた仏像神像には、それぞれの地域が中世から継承してきた宗教感情や造形感覚が生き生きとあらわれている。これまでの美術史も民俗学も見逃してきた、人に寄り添い人を慰め続ける地方の民間仏を一堂に集め、日本における信仰と造形の本質を問い直すものである。岩手・青森に残る近世以降の仏像・神像約70件を展示予定であるが、京都、東京に先駆けて地元で展観するものであり、当地の民間仏を本格的に紹介する貴重な機会となる。	龍谷大学龍谷ミュージアム 2023年9月16日（土）～11月19日（日） 東京ステーションギャラリー 2023年12月2日（土）～2024年2月4日(日)
2	面構　片岡球子展　たちむかう絵画	巡回展	6/3（土）～7/17（月祝）	39	現代日本画	片岡球子は1905年（明治38）北海道札幌市生まれ。地元札幌の高等女学校師範科に在学中に画家になることを決意し、卒業後単身上京して女子美術専門学校（現女子美術大学）を卒業後、小学校教員を続けながらの画家修業となるが、初入選後は展覧会に落選を重ね、苦しい状況が続く。ゲテモノとまで言われながらも自分のスタイルを崩すことのなかった片岡がようやく院展本展に入選して会友に推されたのは7年目、院展同人となったのは実に22年目のことであった。 人物描写に関心を寄せる片岡は医師、僧侶、行者など独特の個性を持った人間を描いたが、特に歌舞伎役者の描写を経て、終生の画題となった「面構」のシリーズを確立する。 「面構」は歴史上の大人物を現代によみがえらせるという試みであったが、中でも浮世絵師を描く作品は、同じ画家として彼らの生き様と画業に対するオマージュともいえるものであった。本展は、面構シリーズのみに焦点を当て、過去最大規模の点数を集めた初の展覧会となる。当館では本画50点のほか素描や下図類もあわせて展示予定。	そごう美術館 2023年1月1日（日）～1月29日（日） 北九州市立美術館分館 2023年4月8日（土）～5月21日（日）
3	フィンランドのライフスタイル ～暮らしを豊かにするデザイン～	巡回展	7/29（土）～9/10（日）	40	デザイン	フィンランドのライフスタイルの中に見られるデザインに注目した展覧会。家具、プロダクト、陶器、ガラス、グラフィック、テキスタイル、映像など約350点を展示するほか、インスタレーションや再現展示も予定。 環境問題や自然との共存が重視される現代、″サステイナブル・デザイン″や″タイムレス・デザイン″を世界中が意識するようになったが、それに先駆け、フィンランドでは20 世紀初頭からこのような意識改革を実践している。創造の根源に「自然」と「人間」との調和を重視してきたフィンランドのデザイナーたちによるデザインは、時代が変わっても廃れることはなく、技術の進歩や新しいムーブメントに合わせてしなやかにその姿を変えていった。現在、私たちはコロナ禍という状況のもと、新しい生活習慣に取り組む日々を送っているが、本展で紹介されるフィンランドの森や自然を背景にした創造性や人々のライフスタイルを学ぶことで、これからの生活におけるヒントを得ることができるだろう。	高松市美術館 2023年4月15日（土）～6月11日（日） 岩手県立美術館 2023年7月29日（土）～9月10日（日） ひろしま美術館 2024年4月～6月
4	高畑勲展	巡回展	9/30（土）～12/17（日）	68	アニメーション	初の長編演出（監督）となった「太陽の王子 ホルスの大冒険」（1968年）で、悪魔と闘う人々の団結という困難な主題に挑戦した高畑勲（1935～2018）は、その後もアニメーションにおける新しい表現を開拓していく。70年代には、「アルプスの少女ハイジ」（1974年）、「赤毛のアン」（1979年）などのTV名作シリーズで、日常生活を丹念に描き出す手法を通して、豊かな人間ドラマの形を完成させる。80年代に入ると「じゃりン子チエ」（1981年）、「セロ弾きのゴーシュ」（1982年）、「火垂るの墓」（1988年）など、日本の風土や庶民生活のリアリティーを表現するとともに、日本人の戦中・戦後の歴史を再考するようなスケールの大きな作品を制作。遺作となった「かぐや姫の物語」（2013年）ではデジタル技術を駆使して手描きの線を活かした水彩画風の描法に挑み、従来のセル様式とは一線を画した表現上の革新を達成した。 常に今日的なテーマを模索し、それにふさわしい新しい表現方法を徹底して追求した革新者・高畑の創造の軌跡は、戦後の日本のアニメーションの礎を築くとともに、他の制作者にも大きな影響を与えた。本展覧会では、絵を描かない高畑の「演出」というポイントに注目し、多数の未公開資料も紹介しながら、その多面的な作品世界の秘密に迫る。	
5	自主企画展 不安の時代を生きる（仮）	自主企画展	1/6（土）～2/18（日）	38	岩手近代美術	新型コロナウイルスの世界的なまん延が象徴するように、私たちの生きている世界は、天災が相次ぎ、ウイルスが生活を変え、世界中のあらゆる部分で摩擦が生じ、争いの止まない、共同体＝コミュニティのなかで生きることに大きな生きづらさを抱える、ひとつの「不安の時代」であるといえます。今からおよそ百年前に生きた人たちも、関東大震災という大きな天災に端を発するように、恐慌、そして戦争というまたひとつの「不安の時代」を生きていました。本展では「コミュニティ」をキーワードとして、百年前の「不安の時代」の美術の動きを振り返ります。ここでは岩手を例に「ふるさと」を軸としたコミュニティを中心に据え、表現上の美術の動向からでは見ることが難しい、美術家が社会とどのように関わり、また社会は美術にどのようなことを要請したのかを探ります。社会全体が不安を抱えた困難な時代の美術を検証し、考えることは、新たな「不安な時代」を生きる私たちにとっても大きな意義があり、現代社会に多くのことを投げかけることになるでしょう。	
6	アートフェスタ2023	自主企画、県芸術祭実行委員会との共催	3/2（土）～3/24（日）	20	岩手	2023年秋に開催される第75回岩手芸術祭美術展の受賞(芸術祭賞、優秀賞、奨励賞)作品に加え、日本画、洋画、版画、彫刻、工芸、書道、写真、デザイン、現代美術、水墨画の10部門それぞれから推薦された美術家たちの作品100点。令和4年に受賞した令和3年度岩手県美術選奨受賞作家4人の作品も併せて展示。	